課題改善カリキュラム

算数科　東京ベーシックドリル・学力調査に基づく課題と平成２９年度の授業改善策

５３大泉東小学校

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 調査から分析される課題 | 課題を解決するための授業改善策 |
| １年 |  |  |
| ２年 | * 「整数の意味と表し方」で正答率が３割と他に比べかなり低い。
* 「式による表現」は正答率が４割。文章題を理解して立式することができない児童がいる。
 | * 整数の意味を理解させ、いろいろな表し方をすることに慣れさせていく。宿題、チャレンジタイム等で繰り返し練習していく。
* まず、文章をよく読ませ、書かれている内容を理解させる。そして、聞かれている言葉に線を引き、大事なところに注目する習慣をつける。引き算の際には、「数の大小」や言葉の意味にも注意するように指導する。文章題にたくさん取り組ませることで、立式することや解くことに慣れさせていく。
 |
| ３年 | * 「三角形・四角形」の正答率が3割となっており、とても低い数値である。四角形の特徴を捉え、弁別することができていない。
* 「量の単位」の正答率が４割となっており、とても低い数値である。ものの「長さ」や「水のかさ」については単位の換算をおさえる必要がある。
 | * 全単元で習熟度別指導を実施し、児童の学習状況に合った進度や内容にする。
* 算数の学習の時間以外にも、日常的に実体験として「長さ」や「水のかさ」について触れる機会を増やし、定期的に宿題として取り組ませる。
* 「三角形・四角形」では、実際に三角形・四角形を弁別する算数的な活動をチャレンジタイムで取り入れていく。
 |
| ４年 | * 「時こくや時間」の正答率が３割と一番低い。また、「式による表現」の正答率も５割と低い。
* 「表や棒グラフ」も正答率が低く、解答の様子から、ていねいに作業をすることを苦手とする児童が多くいることが見取れた。
* 「分数のたし算」は正答率が９割、「整数のわり算」は８割であった。
 | * 「時こくや時間」は児童のつまずきをより細かく把握していく必要がある。東京ベーシックドリルの練習シートを活用し、つまずきの把握を進めていく。
* 正答率の低い単元は、東京ベーシックドリルの練習シートを授業等でも取り入れ、学習内容の定着を図る。
* チャレンジタイムでは、反復的な練習や既習学習の振り返りを取り入れながら個別指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
 |
| ５年 | * 東京ベーシックドリルにおける正答率が低い学習内容として、「およその数」「小数のわり算」「面積」「立方体と直方体」があげられる。
* 『児童・生徒の学力向上をはかるための調査』における正答率の低い問題として、「十進法の理解」（正答率25.2%）や「比例の活用」（正答率48.7%）があげられる。また、問題を通して問われているものとして、比較関連付けて読み取る力、数学的な考え方、意図や背景、理由を理解･解釈・推論して解決する力に課題があることがわかった。
 | * 習熟度別少人数指導などで授業方法を工夫し児童の学習意欲を高めていく。
* 教科書の内容に加え、問題の題意を読み込む必要のある発展的な問題に取り組むコースを少人数指導において設定する。
* 授業の中で、文章題の数値や聞かれていることにアンダーラインを引く習慣をつけるなど、学校で統一した指導を展開していく。
* チャレンジタイムを活用し、反復的な練習や既習の学習内容を振り返る指導を展開する。
 |
| ６年 | * 東京ベーシックドリルでは、「単位量あたりの大きさを求める問題」の正答率が２割に満たなく低かった。「簡単な比例の関係」「整数の性質」「帯グラフや円グラフ」の正答率も低かった。
* 全国学力・学習状況調査では、数と計算についての知識の平均正答率が全国より低かった。演算決定力が低い傾向にある。
 | * 習熟度別少人数指導などで授業方法を工夫し子供の学習意欲を高めていく。
* 単位量あたりの大きさなどを求める際に、数直線を活用して、数の関係を明確にし、視覚的に捉えやすくしていく。
* 授業の中で反復練習する時間をとったり、東京ベーシックドリルの結果を踏まえてチャレンジタイムを活用したりして、基礎的・基本的な学力の定着を図る。
 |